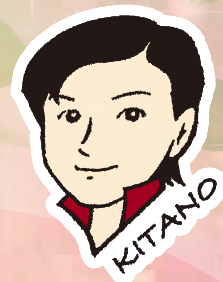


優しい風の 吹く街



第68号
2022年冬号

市民ネット宝塚



＜決算特別委員会・北野賛成討論＞11月11日

2022年がスタートしました。2021年はコロナ禍で始まり何度も感染拡大の波が押し寄せました。秋にはワクチン接種が進みピークは過ぎたとの見方もありますが、今後も当分は感染を防ぐ努力を続けていきましょう。

これからは「Withコロナの時代をどう生きるか」というマインドに切り替えて、社会の状況を注視ししっかり考えて議員活動をおこなっていきます。



＜特別決算委員会＞ 2020年度宝塚市一般会計歳入歳出決算

主な特徴として一般会計は新型コロナウイルス対策関連事業費の増により、前年度比較で約30%の大幅増となった。

収支については市税及び交付金などの増や、医療費の減などにより、約15億円のプラスとなり、標準財政規模の3～5%で適正な黒字額にも合致。

なおかつ、財政調整基金の取り崩しもなく、地方債残高は約10億円減、基金残高を約8億

円増やすことができた。

経常収支比率も1.5ポイント改善して95.4%となり最近では一番良くなっている。

この間、補正予算対応も13回おこなわれ、当初予算、補正予算どちらも議会が全会一致で可決。コロナ禍のなか、必要な事業がおこなわれてきたことを評価して、決算認定に賛成の討論とした。

▶質疑内容は中面へ

1. 総務費

<質問>

固定資産税は市税の中でも安定した収入だが、これまで課税誤りの報告があった。再発防止のためには職員の専門的な資質向上が大事だが、研修会等に参加しやすい環境になっているのか。また課税誤りをなくすためのマニュアル整備は。

<総務部長答弁>

固定資産の評価は非常に高度な専門性や知識経験が必要とされる業務であり、職場内外の研修には職員を積極的に参加させ、知識技術向上に努めたいと考えている。マニュアルの大枠は整備しており、さらに実用的になるよう充実を図っていく。

2. 民生費

<質問>

市役所横に移転した、阪神育成事業団ななくさ育成園は、相談支援事業所や地域交流スペース、福祉避難所機能など、市民利用はできているのか。

<健康福祉部長答弁>

新型コロナの影響により、地域交流室を利用し、地域のニーズを踏まえた地域貢献事業や、地域食堂なども中止となっているが、地域住民との交流やイベントの実施に向けて、福祉関係事業者等との新たな連携が期待されている。

3. 衛生費

<質問>

看護専門学校について、看護師確保の観点からも存続してほしいと考える。今後の考えは。

<総務部長答弁>

昨年6月に看護専門学校事業の「あり方に関する検討委員会」を行った。この学校ができた当初の目的は、市立病院の増床に対応する看護師確保であったが、目的は達成した。成績優秀の学生が多く、

市に代わって運営を担う主体が見つかることが望ましいとの見解が出され、そのような主体があるかどうかを含めて現在検討中である。

4. 労働費

<質問>

新型コロナに起因する解雇等、深刻な状況が増えているが、対策は。

<総務部長答弁>

ワークサポート宝塚でも非正規雇用の人が雇い止めにあったという相談が多くあり、相談員を増やし、相談時間を充実して対応している。また、市独自の取組として、若者しごと相談として予約制の相談窓口を設けて寄り添った支援をおこなっている。

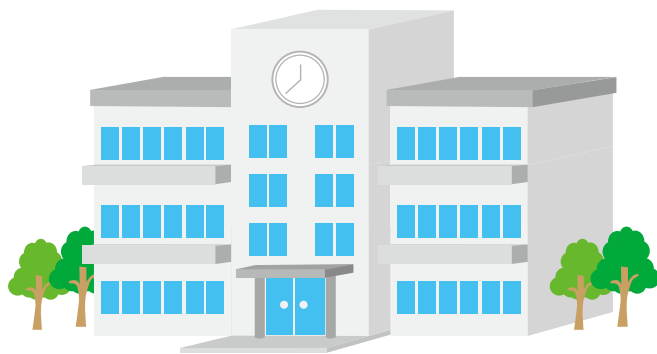
5. 教育費

<質問>

よい教育、豊かな学校環境をつくり、子どもたちにしっかり向き合うためにも教職員の働き方改革を進めてほしい。教職員の勤務時間の長時間化についてどのような取組をおこなっているのか。

<職員課長答弁>

教員には時間外勤務手当がなく、勤務時間全体の記録を残す習慣が全国的にないことから、教員が出勤してから帰るまでの正確な時間が把握できていない。実態を把握し、今後どう対応していくのか、働き方改革の中で具体的に検討しなければならないと考えている。



ジェンダー平等を実現しよう

<質問>

「女性の年齢階級別労働力率の推移」を見ると、1979年には25歳から34歳の女性の就業率はぐんと下がるM字カーブと言われていたが、1999年にはその下がり方は緩やかとなり、2019年には20歳から59歳まで下がることがなくなっている。どう分析するか。

また女性は56%が非正規でコロナ禍での解雇等不安定な雇用で苦しんでいる。そのような女性への就労支援について市はどうするのか。

<市長答弁>

近年におけるM字カーブ変化の要因としては女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の施行や保育の受け皿整備の加速化、女性の登用に向けた企業への働きかけなどの取組が考えられるが、一方で男性に比べ女性の方が雇用者に占める非正規雇用者の割合が高いことなどが、女性の貧困や男女間の待遇面の格差の一因となっている。

本年11月からは長引くコロナ禍で就労に困難を抱える女性を伴走型で支援する事業TAKARAZUKAすみれウィメンズプロジェクト『はたらくスタートIPO』を開始した。電話や対面での相談だけでなく、チャット相談やアウトリーチ型の相談等、環境整備。パソコン講座やスキルアッププログラム、居場所の提供、テキスト冊子配布等寄り添いながら継続的な支援をおこなっている。

<質問>

男女共同参画プランに基づく重要施策は。

<市長答弁>

- ・地域団体や事業者等への啓発活動の実施
- ・複雑化、深刻化するDV事例に対応するための配偶者暴力相談支援センター機能の充実
- ・性的マイノリティに関する正しい理解や認識を深める阪神7市1町との連携による取組の拡充
- ・男女の多様な働き方に向けた理解の浸透と啓発
- ・男性の家事・育児・介護への主体的な関わり促進
- ・「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」啓発や、様々な分野への女性の参画の促進
- ・市においての特定事業主行動計画の取組

<質問>

2030年代には、誰もが性別を意識することなく活躍でき指導的地位にある人々の性別に偏りが無い社会をめざすという目標も設定された。

その実現に向けた学習や教育の推進は。

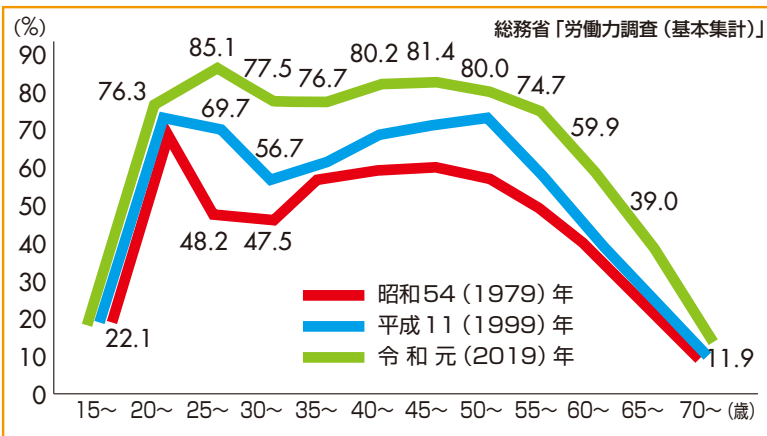
<教育長答弁>

- ・市立学校園所では人権教育を推進し、自他の違いを認め互いの個性を尊重し合える集団づくりをめざす。

<市長答弁>

- ・性別による差別を防ぐ啓発や教育が大切
- ・男女共同参画基礎講座、セミナー等開催

女性の年齢階級別労働力の推移



11/15 宝塚市立自然の家・現地視察

少年自然の家のときに、5年生転地学習の引率で何度も訪れた懐かしい施設である。来年から社会教育日帰り施設として再オープンする。野外炊飯場と、多目的広場やアスレチック利用ができ、特別イベントでは夜の天文台も利用可能になる。また、施設内の市指定天然記念物「松尾湿原」兵庫県指定重要有形民俗文化財「旧東家住宅・歴史民俗資料館」も見学可能である。ギフチョウ飼育も続けられている。



野外炊飯場



天文台ハレーラボ

11/23 前川喜平さん講演会 「子ども・若者の貧困と教育」



風のこころ

宝塚市長選挙、県議補欠選挙、兵庫知事選挙、そして衆議院議員選挙と、選挙に追いかけられた2021年。私はその中で経験したことや与えられた試練を、これから進む道の力としていきたい。